

事務事業 No./名称	■サービス部門 こども-22 子ども会館・子どもの家管理運営事業 □支援部門		
主管課	青少年課	関連課	こどもみらい課
分野名	青少年育成		
目標 (目標値)	市内各小学校区にそれぞれ1箇所ずつ子ども会館・子どもの家を整備する(子ども会館・子どもの家各16箇所)		

人口等のデータ	データ区分	25年度	24年度	23年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)
	人口	177,895人	177,224人	177,204人	
	世帯数	80,295世帯	79,669世帯	79,217世帯	
	事業の対象者数	23001人	22972人	22822人	
運営資源状況	決算値(千円)	216,171	216,319	204,870	
	(国・県)	31,044	30,391	33,234	
	(負担金等)	52,625	47,554	45,313	
	(一般財源)	132,502	138,374	126,323	
	人員配置数	4.7人	3.6人	2.9人	
	人件費(千円)	40,561	31,379	27,203	
	協力のパートナー	かまくら子育て支援グループ懇談会	かまくら子育て支援グループ懇談会	NPO法人輝き・遊っこ・楽っこ	
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	256,732	247,698	232,073	
	市民1人当りの経費(円)	1,443	1,398	1,310	
	対象者1人当りの経費(円)	11,162	10,783	10,169	

ベンチマーク(県内 外自治体や民間団体 との比較値)	団体名⇒								

指標	評価	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終年度(27年度)
各小学校区での小学校への距離と子ども会館未設置の解消など子ども会館・子どもの家の適正な整備	△	目標値	16施設	16施設	16施設	16施設	16施設
		実績値	9施設	10施設	9施設	10施設	16施設
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退							

中事業に含まれる小事業の方向性(⇒個別事業の概要は裏面) (千円)

H25小事業名	H25決算値	H26小事業名	H26予算額	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止			
子ども会館・子どもの家 管理運営事業	216,171	子ども会館・子どもの家 管理運営事業	239,380	今後の 方向性	A	理由 ・手法	平成27年度から子ども・子育て支援新制度が施行され、待機児童を平成31年度まで解消するための施設整備、また、職員の処遇改善が必要である。
				今後の 方向性		理由 ・手法	
				今後の 方向性		理由 ・手法	
				今後の 方向性		理由 ・手法	
				今後の 方向性		理由 ・手法	

中事業の評価(事務事業の課題、取組状況、今後の方向性)

H25年度の課題	・子ども会館・子どもの家の持続可能な運営体制について検討する必要がある。 ・入所児童増加に伴い、施設規模が手狭になってきているため放課後全児童対策を関係部署と検討する必要がある。 ・閉館した深沢子ども会館、腰越子ども会館・子どもの家の建設を進める必要がある。							
課題解決のための取組	・施設に課題のあった大船第二子ども会館・子どもの家を旧北鎌倉美術館に移転し、小坂子ども会館・子どもの家と名称を改めた。 ・耐震性に課題があり閉館した深沢子ども会館については、平成26年8月に暫定施設設置を目指す手続を進めている。					取組の結果	□解決 ■未解決	
未解決の課題	・耐震性に課題があり休館している腰越子ども会館及び暫定的に腰越小学校内に移転している子どもの家の整備を進めること。 ・小学校から距離がある西鎌倉子ども会館・子どもの家、岩瀬子ども会館・子どもの家の整備、子ども会館未設置学区の解消に向けた検討を図ること。 ・子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ量の把握をする必要がある。							
中事業の評価	適切=○要改善=△(2面「評価の視点」を参照)			➡	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○
今後の方向性 (課題解決に向けた取組 ・H26予算への反映)	平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が導入されることから、子ども会館・子どもの家における円滑な運営を図るため、施設整備や職員の処遇等の見直しについて検討していく必要がある。						➡	A
※□事業完了								

評価者名 青少年課長 田中 良一

